

別紙様式3

平成28年度 ～魅力ある高校づくり推進事業～ 東濃高校活性化協議会 第3回議事要旨

日 時	平成29年 2月6日(月) 13:30～15:10
場 所	東濃高校 会議室
出席者 (敬称略、 委員名は 50音順)	<p>(委員)</p> <p>伊藤 英生 岐阜県議会議員 衛 紀生 可児市アーク館長 各務 眞弓 NPO法人可児市国際交流協会事務局長 鍵谷 欣弘 学校評議員(東海化成工業総務人事課) 嶋崎 友美 東濃高校PTA会長 田中 秀典 御嵩町教育担当参事(教育長代理) 平井 繁幸 学校評議員(御嵩町商工会長) 藤井 眞弓 学校評議員(地域代表(主婦)) 二村 文生 御嵩町立向陽中学校校長 渡邊 公夫 御嵩町長、東濃高校同窓会長 渡邊 剛 学校評議員(御嵩町ボランティア 輝き隊)</p> <p>(高校側)</p> <p>平井 学 校長 片山 澄美 教頭 林 博志 事務長 井藤 勝夫 教務主任 大島 直人 生徒指導主事</p>
議事概要	<p>1 キャリア教育プログラム発表会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒にとって、社会人との交流の機会は大切であり、キャリア教育プログラムのプレゼンの経験は貴重である。高校生になって、一年間で随分成長したと感じた。この発表会を継続することが大切だ。生徒が発表する姿を、保護者にも見てもらえるとよい。 ・ 生徒の聴く姿勢が大変良かった。静かな雰囲気を作れるよう、生徒同士で呼び掛け合っていたのはうれしいことである。今後は授業の中でも、グループ発表の機会を大切にするとよいのではないか。 ・ 今日の発表会を見て感動した。教員の指導の賜だと感謝している。伝え方や声の大きさをさらに鍛え、生徒にとっての身近なテーマ設定を心掛けると一層良くなる。また、外国人生徒についてはタガログ語等を使って発表し、通訳をつけることで、生徒の国際感覚が磨かれるのではないか。 ・ 発表が年々良くなっている。きちんと相手に言いたいことを伝えようとしていた。東濃高校は、生徒の自己肯定感をしっかり醸成していると常々感じている。特に外国人生徒にとって、自分を認めてもらう機会は非常に大切である。今後も、皆で一緒に何かに取り組み、発表の機会を作ることを大切にしてほしい。 ・ 声が小さい生徒に対して指導に当たるときは、生徒への共感の姿勢、心に寄り添う姿勢が何より大切である。 ・ 互いに共感でき、情緒が非常に安定した生徒たちである。今日の生徒自身による評価を、今後の改善に生かしてほしい。

2 演劇表現ワークショップについて

- ・ 文化庁は先進事例として東濃高校の取組を取り上げており、大変誇らしい。
- ・ ワークショップを通じて、自分の存在意義を見つけた生徒が多いということを知り、喜んでくれている。ワークショップの有効性について、しっかり整理しておきたい。
- ・ 相手の気持ちを気遣い、言葉を発する、「共感する力」を身に付ける指導について、より一層深めてほしい。

3 その他、来年度に向けて

- ・ 御嵩駅で東濃高校の生徒から爽やかな挨拶を受ける。通学マナーも良い。高校生には小中学生の憧れる存在になってほしい。町教育委員会は全面的に協力する。
- ・ 御嵩町の事業として、東濃高校の生徒に防災士の資格を取得してもらうことを考えている。
- ・ 消防団の活動について、生徒に紹介してほしい。
- ・ 外国人生徒が活躍できる場をより一層増やせるとよい。
- ・ 御嵩町主催の夏祭り等のイベントで、より一層、東濃高校をアピールするとよい。
- ・ 地域への広報活動について、効果がどれくらいあったか検証が必要だ。
- ・ 保護者の声や反応を大切にしてほしい。